2026 年 7 月 12 日（日）主日朝礼拝説教

『約束によって与えられる』　井上隆晶牧師

ガラテヤの信徒への手紙 3 章 21～29 節、マタイによる福音書 20 章 9～16 節

❶【ガラテヤ教会の問題＝律法に戻ろうとする力】

パウロは一か所にとどまって宣教し、牧会する教師ではなく、いろいろな地方を巡回しながら宣教する教師でした。人生で三回伝道旅行をしています。彼が伝道したのは地中海沿岸のシリア地方と小アジア地方（今のトルコ）とギリシャ地方です。小アジアにはガラテヤ教会、エフェソ教会、コロサイ教会などが出来、ギリシャにはテサロニケ教会、フィリピ教会が出来ました。彼は教会を建てるとすぐに他の地方に宣教に行きますから、教会には教師がいなくなります。するとすぐその教会にいろいろな問題が起こって来ます。間違った福音の教えが入って来たり、教会内の争いや異教との付き合い方などの問題です。そこでパウロはその教会に手紙を書いて指導しました。その手紙がまとめられて「パウロ書簡」として新約聖書に入れられました。だからパウロの手紙は「異端に対する正統信仰の教え」「信仰生活の指導書」だと思ってください。

ガラテヤの信徒への手紙は、「**ガラテヤ地方の諸教会へ**」（ガラテヤ 1：2）宛てられていますから諸教会へ回覧されたことが分かります。ガラテヤ教会の問題は何かと言うと、パウロの後からやってきた偽の教師たちが、パウロのことを「彼は使徒ではない」と言って、パウロが伝えたのとは違うキリストや、違った福音を伝えたことにあります。そこでパウロは「**あなたがたがこんなにも早く離れて、ほかの福音に乗り換えようとしていることに、私はあきれ果てています。**」（ガラテヤ 1：6）と語り、「**あなたがたが受けたものに反する福音を告げ知らせる者がいれば、呪われるがよい。**」（1：9）と呪詛文まで書いています。この「**ほかの福音**」とは何かというと、キリストだけでは救われず「**ユダヤ人のように生活し、割礼を受け、手を洗う儀式をしなければ救われない**」という教えです。ユダヤ律法主義に逆戻りさせようとする働きです。これとは反対にコリント教会では、偽の教師たちによって持ち込まれた「**私にはすべてのことが許されている**」（Ｉコリント 6：12）という教えの問題がありました。皆が口を合わせて宣言していたようです。今でもこの二つの教えは形を変えて現れています。

●2014年に韓国で修学旅行中の学生300名が命を落としたセウォル号沈没事件では、その船の乗組員 9 割が「救い派」の信者であることが分かりました。救い派は現在三つのグループ「グッド・ニュース宣教会、キリスト教福音浸礼会、命の御言葉宣教会」に分かれて活動しています。その教えは「**悔い改めを繰り返すのは救われていない証拠であり、悔い改める必要はない。救われた者が犯す罪は成立しない。律法は完全に廃棄されたので、盗み・殺人・姦淫などを犯しても罪にあたらない**」と

いうものです。これは問題でしょう。コリント教会もこれと同じでした。イエス様は「**私が来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである。**」（マタイ 5：17）と言われました。律法は神が定めた良いものです。それは自分の力ではなく、キリストの力（聖霊）によって守るものです。完成するとはそういう意味です。

律法と福音を対立させて、律法＝行いであり、福音＝信仰だと読み間違え、律法を行わなくても良い、信じるだけで良いのだと教える教師がいます。それでは救い派と同じ異端になります。信仰だけで良いなら、なぜヤコブ書が入れられたのでしょう。しかもヤコブ書は東方教会では、使徒言行録の次に重要な書として置かれており、パウロ書簡はこの公同書簡（ヤコブ、ペトロ、ヨハネの手紙）の後に置かれています。またパウロは、その手紙の後半部分では、常に行いを語っています。イエス様も「**わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。**」（マタイ 7：26）といって、信じるだけでなく行う事を命じています。信仰と行いは対立させるものではなく、共存させるものです。**パウロが「律法の行いによって救われない」と語る時は「人間の力によって人は救われるのではない」という意味であり、「福音によって救われる」と語る時には、キリストによって人は救われるのだという意味なのです。人間の力に頼るのではなく、キリストの力に頼れと言いたかったのです。**

❷【キリスト教とは徹底的に約束の宗教であること】

3 章 16 節からパウロは「律法と約束」について語ります。**キリスト教とは、徹底的に「神の約束の宗教」であるということを言っています。**それが分かるのはアブラハム物語です。アブラハムに対して神様は土地と子孫を与えると約束をされました。彼がその約束を聞いたのは 75 歳の時です。しかし子供ができないまま、どんどん歳をとっていくのが不安になった彼は、妻サラではなくて女奴隷ハガルによって跡継ぎをもうけました。そうやって人間の策略によって生まれたのがイシュマエルであり、今のアラブ人のルーツです。でもアブラハムが 100 歳になった時、約束の子イサクが生まれ、その約束の子が彼の跡継ぎになったのです。「**地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る。**」（創世記 26：4）という約束（アブラハム契約）はアブラハムからイサクへ、ヤコブへと受け継がれてゆきました。律法というのは、このアブラハム契約の 430 年後に出来たものだとパウロは書いています。先に「約束」があり、後に「律法」ができたのです。だからアブラハムの子孫であるキリストによって、すべての国民は祝福に入るのであって、律法を守り行うことによって祝福に入るのではないというのです。

❸【律法の役割とは】

19 節から 25 節までは、「律法の役割」についてパウロは語ります。律法とは私たちの違反を明らかにするために与えられたものだと語ります。**つまり人間の力で**

は自分も人も社会も救うことができないということを悟らせるためにあるのです。ところがユダヤ人は律法を、自分の無力さを知るためではなく、自分の優越性を保証するため、他民族を軽蔑するために用いたのです。**自分は無力であると悟るからこそキリストが必用になります。自分に力があると思う人は、キリストを必要とはしません。**それは現代でも同じです。人間の力で、人や社会を変えられる、救うことができると思っているキリスト教徒がいるなら、そのような人はキリスト教徒ではなく、ユダヤ教徒なのです。

❹【キリストによってのみ人は神の子になる】

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。」（ガラテヤ 3：26～27）私たちは洗礼によってキリストに結ばれ、彼と一体になりました。洗礼はキリストとの結婚式です。私はキリストの体となったのです。それは私だけでなく、あらゆる民族の人も、男性も女性も、どんな身分の人も同じなのです。**キリストに結ばれることによって私たちはまったく新しい人、神の子になるのです。**昔はどの民族でも、ユダヤ人の習慣を倣うことによってユダヤ人になったのですが、私たちは洗礼によってキリスト人になるのです。**パウロは徹底的にキリスト中心です。このキリストと結ばれるかどうかが救いの鍵なのです。**

最後に、先ほどキリスト教とは「神の約束の宗教」であるといいました。祭司ザカリアに大天使ガブリエルは「**時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかったからである**」（ルカ 1：20）と告げましたが、神の約束は、その時が来たら実現するのであって、人間のいかなる条件も関係ありません。人間がいくら熱心でも、その時が来なければ実現しませんし、いくら寝ていても実現する時には、実現するのです。だから神の約束を心に抱いて、待つことしか人間にはできないのです。その神の約束を待ち続けられる人が、本当のイスラエル人なのです。

●イギリスのマーガレット・サッチャー首相は次のような言葉を残しています。
思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。
言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。
行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。
習慣に気をつけなさい、それはいつか人格になるから。
人格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。

心から信じるものが、あなたの言葉や行動に現れ、それが人格になり、最終的には運命さえも形作っていくのです、というのです。もしあなたの中心にいつもキリストが居られれば、それはあなたの言葉や行動に現れ、それがいつしか習慣と

なり、人格を形成し、その人の運命を決めることでしょう。詩編の言葉を思い出します。「**主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ人。その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び、葉もしおれることはない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。**」（詩編 1：2～3）心の内にキリストをしっかりと宿しましょう。そのキリストが私たちの言葉と行動を支配してくださいますように祈りたいと思います。